



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷敏英,大原昌樹
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel : 087-876-1185 Fax : 087-876-3795
E-mail : oharamasaki@gmail.com

★ 第23回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会 (第3報)

第30回四国地域医学研究会 第3回かがわ総合診療研究会 合同学術集会のご案内

大会長：三豊総合病院 中津守人

『第23回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会・第30回四国地域医学研究会・第3回かがわ総合診療研究会 合同学術集会』を、香川県支部が担当で、香川県高松市において下記の日程で開催させていただきます。

人口の減少と高齢化、単身世帯の増加、老老介護などが、益々大きな社会問題となってきています。プライマリ・ケア医として、医療を提供するだけではなく、その人の生活そのものを支えることが必要な事例も増えています。また、コロナ禍で、地域の中での人と人との繋がりも希薄になってきています。そのような中で、住民の方が、自分らしく、安心して生活できるため、医療や介護によるサービスだけではなく、インフォーマルなサービスも含め、地域づくりも重要となってきていると考えます。そこで、今回、『with コロナ、after コロナ時代のプライマリ・ケア』～地域に寄り添うプライマリ・ケア医を目指して～をテーマに合同学術集会を開催したいと考えています。初日は、一般演題の後、特別講演として、まんのう町国保造田歯科診療所の木村年秀先生に、『地域のつながりで進める食支援のかたち』という演題で、過疎地域での取り組みについてお話していただきます。その後、各県から地域で活躍されている先生1名にシンポジストをお願いし、「地域に寄り添うプライマリ・ケア医を目指して」をテーマにシンポジウムを開催したいと考えています。2日目は、例年どおり、ポートフォリオ発表会、一般演題の後、特別講演として、洛和会丸太町病院救急・総合診療科の上田剛士先生に、『コロナ禍で軽視されがちであった高齢者の身体診察』という演題でご講演をお願いしています。

交流会については、以前のように会員の皆様と顔と顔を合わせ、お酒を飲み交わしながら親交を深めることができると考えています。

多数の皆様のご参加、演題発表を、準備委員一同、心からお待ち申し上げます。



【開催日程】 令和5年11月11日(土) 13:00～18:30

令和5年11月12日(日) 8:30～12:40

【会場】 香川県立中央病院 1階講堂 (香川県高松市朝日町一丁目2番1号)

【プログラム】(予定)

【第1日目】11月11日(土)

時間	演目
13:00~13:20	四国地域医学研究会総会
13:30~	受付 ログイン開始
14:00~14:10	開会式
14:10~15:25	一般演題1
15:35~15:45	日本プライマリ・ケア連合学会 理事長挨拶 北海道家庭医療学センター理事長 草場鉄周先生
15:45~16:25	特別講演① 『地域のつながりで進める食支援のかたち』 まんのう町国保造田歯科診療所 木村年秀先生
16:30~18:10	シンポジウム『地域に寄り添うプライマリ・ケア医を目指して』 愛媛県：愛媛大学医学部地域医療学講座 二宮大輔先生 高知県：黒潮国保拳ノ川診療所 澤田努先生 徳島県：調整中 香川県：水谷内科クリニック コルビン真梨子先生
18:20~18:50	四国ブロック支部総会
19:30~21:30	交流会

【第2日目】11月12日(日)

時間	演目
8:00~	受付 ログイン開始
8:30~10:00	・ポートフォリオ発表会
10:10~11:25	一般演題2
11:30~12:30	特別講演② 『コロナ禍で軽視されがちであった高齢者の身体診察』 洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 上田剛士先生
12:30~12:40	閉会式

以下の Web サイトにある、参加・演題登録申し込みフォームから申し込みをお願いします。

地方会ウェブサイト <http://mitoyo-hosp.jp/pc2023.html>

演題申し込み締切 令和5年9月30日(土)まで

参加申し込み締切 令和5年10月20日(金)まで



問い合わせ先

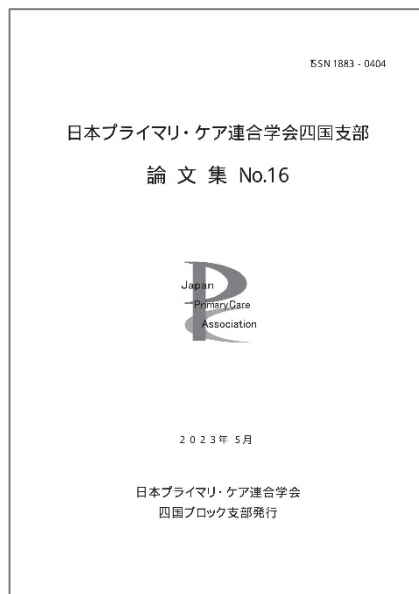
第23回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会 第30回四国地域医学研究会 第3回かがわ総合診療研究会
合同学術集会 事務局 三豊総合病院 相談員 石山晃子
〒769-1695 香川県観音寺市豊浜町姫浜 708 番地
TEL0875-52-3366 FAX 0875-56-3306 E-mail : pc2023@mitoyo-hosp.jp

★ 四国ブロック支部会誌（論文集）アンケート（途中経過報告）

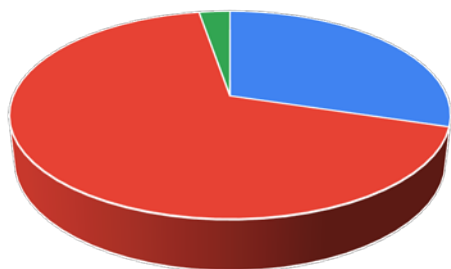
四国ブロック支部長：阿波谷敏英

四国ブロック支部では、毎年、支部会誌（論文集）を発行し、毎年8月頃に地方会の開催案内とともに皆さまのお手元に郵送させていただいています。これは、旧プライマリ・ケア学会当時から継続されており、四国ブロック支部の特徴的な活動の一つとなっています。地方会の演題を発表した方に論文形式での原稿をお願いしていますが、近年、執筆いただける方が少なくなっています。支部役員会でも議論しており、他の学術雑誌にも投稿した場合、二重投稿を懸念するご意見もありました。支部会員にとって有用な会誌にしていきたいと考えており、今回、支部会誌の郵送にあわせて、オンラインアンケートをお願いしました。

これまで37名の方にご回答いただいています（回答率9.6%）。ご意見をお寄せいただき有難うございます。現在までの回答を集計しましたので、結果（暫定）をご報告します。

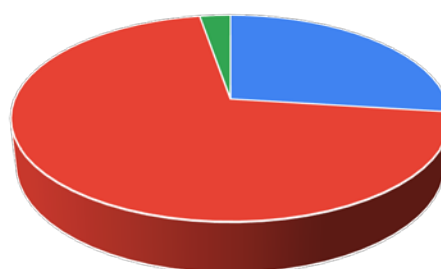


会誌が届いたらどうしていますか？



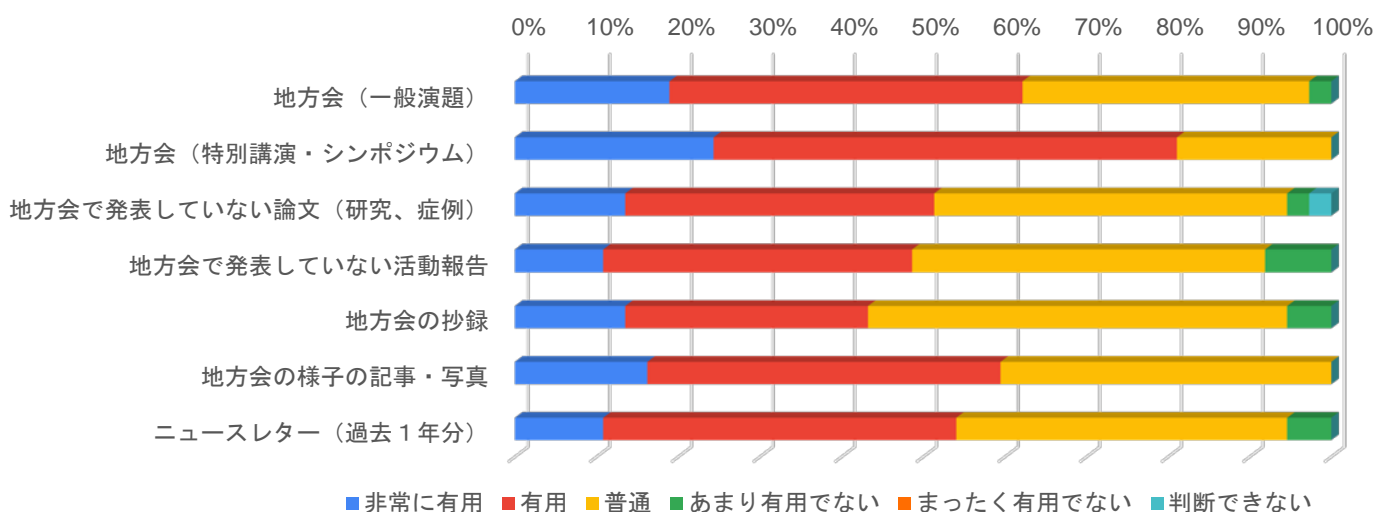
- 時々まで目を通す
- 興味のある記事だけ目を通す
- 全く読まない
- その他

地方会の登壇者に原稿依頼することについて

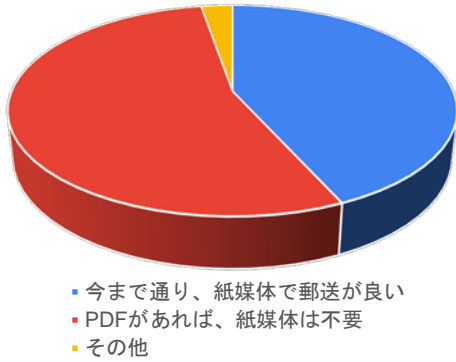


- 原則、原稿を書いてもらうべき
- 原稿を書くようにお願いし、書きたい人だけ書く（現状）
- 依頼せず、提出があった人のみ掲載
- その他

記事の有用性について



紙媒体（冊子）での発行について



今後、編集委員会を組織し、支部会誌のあり方について検討していこうと考えており、今回のアンケート結果を参考にさせていただきます。

ご意見は、まだまだ募集しておりますので、まだご回答いただけていない方は、ぜひ右のQRコードから入力をお願いします。



【連載】プライマリ・ケア認定薬剤師、プライマリ・ケア認定看護師のご紹介

所谷 美和さん（特定医療法人長生会 大井田病院 薬剤課）

私は、高知県の西部、宿毛市の大井田病院で勤務をしています。

今回はプライマリ・ケア認定薬剤師を取得し、どのような活動をしているか、そしてこれからの目標なども紹介したいと思います。

まず、私の勤務する宿毛市は高知県の中の「幡多医療圏」にあります。地域の中核病院である幡多けんみんな病院を中心として、ある程度地域の中で医療が完結できています。

その中で、当院は在宅療養支援病院として、関連グループの中で医療から介護・在宅まで幅広く対応し、地域の皆さんの健康を支えています。

勤務しているのが病院という特性から、主軸はどうしても「治療」となり、自分が関わるのは患者さんの長い人生の中のほんの一部のみとなることが多いです。治療が多様化する中で、薬の飲み方は複雑化し、いい薬があっても患者さんの負担も多くなり、結果治療を断念せざるを得ない状況を見ることも多いです。その中で、プライマリ・ケアで学んだ患者さんにとって、一番幸せなことは何かという観点を常にもち、業務を行うことを心がけています。



『医師と患者をつなぐ、病院薬剤師と薬局薬剤師をつなぐ、病院と地域をつなぐ。』

自分のキーワードとしている様々な「繋ぐ」が生み出す可能性を見出し、地域の健康に寄与していきたい。地域のかかりつけ薬剤師になりたい。

しかし、現状はうまくいっていません。高知県は薬剤師不足、特に病院薬剤師不足は深刻であり、この問題は喫緊の課題として県を巻き込んで取り組んでいるところです。地域へ赴こうと思いつつ、自院の業務で手一杯の状況が続いています。

ただ、この現状がいつか回復する見込みのない状況の中でも、自分にできることはないかと考え、まずは関

連グループ(特別養護老人ホームや居宅支援事業所)での薬の勉強会、包括支援センターでの講師など、できることから少しずつ行っています。

病院と保険薬局との間でも連携は必要です。幡多医療圏では「幡多地域医療情報ネットワークはたまるねっ」とが運用されており、ICTが進んでいます。患者さんの情報のやりとりも可能で、薬薬連携強化につながっています。今年中にはこのシステム内でオンラインを使ったミーティングも可能になるので、こちらも積極的に活用して連携を図ります。

また、当院の在宅療養支援については、当院には、コミュニティナースと訪問看護認定看護師という在宅療養看護のスペシャリストが在籍している県内でも珍しい病院でもあります。そこに、プライマリ・ケア認定薬剤師として在宅への関わりをさらに強化できるよう、多職種を巻き込んだ地域での「移動保健室」への参加など、住民のもとへ赴き関わる活動へも積極的に関わっていきたいです。



当院にはヘルスケア・モビリティ(医療MaaS)もあり、来院する事が困難な人にはこの車両で看護師が運転し患者宅へ赴き、オンライン診療も行っています。この車両を生かした薬剤指導、健康相談も今後のやりたいことの一つでもあります。

そして、もう一つ。宿毛市には有人離島、沖の島と鶴来島があります。沖の島には診療所があり、当院からも医師が定期的に診察に伺っています。現在、投薬は島の看護師さんが行っていますが、薬剤師として島の方の健康に寄与できる可能性は多くあります。今後、

自治体の方と協力をしながら、何かできることはないか考えているところです。

認定を取得して早くも7年がたちましたが、先述したとおり、十分な活動ができておらず、これからの目標のほうが多いです。プライマリ・ケア認定薬剤師は現在全国で165名いますが、四国では2、3名と伺っています。他の地域ではブロックごとに薬剤師部会があり、定期的な勉強会開催や支部の学会での薬剤師企画など積極的に行われており、羨ましいと思うことがあります。しかし、この四国ブロックという中で医師の先生方をはじめ、多くの職種の方と関わりをもてるコンパクトさがある意味逆手にとって、活動していく方法を模索しています。

コロナ禍の恩恵といえば、大都市圏でしか開催されなかった認定薬剤師の研修会がオンライン開催となり、単位取得が容易となったことです。距離という壁に認定取得を断念している薬剤師には本当に有難いことでもあります。身近に認定取得を目指す薬剤師がいればお声がけください。もちろん、認定薬剤師の仲間が増えることは嬉しいですが、あくまでも資格の一つであり、認定の有無に限らず、地域で活躍している薬剤師は多くいます。きっと周りを見渡せば、各地域にキーとなる薬剤師さんは存在しているはずですよ。その方たちを巻き込んで、その地域ならではの地域包括ケアシステムを作ることができるのではないのでしょうか。多くの薬剤師はもっと自分たちをどんどん必要としてほしい、地域に貢献したいと思っています。ですのでどんどん薬剤師と関わって頂きたいし、薬剤師側もどんどん積極的に活動してほしいと願っています(大人しい人が多く、控えめな職種かもしれません。あくまで個人的意見ですが笑)。

これからも、認定薬剤師として全国の仲間とともに切磋琢磨しながら、地域のかかりつけ薬剤師となるべく頑張っていきます。

最後に学生の頃からお世話になり、プライマリ・ケアの道にいざなってくださった阿波谷敏英先生、そして、人が少ない中でも認定取得を後押ししてくださり、その後も支え続けてくださる当院の院長、田中公章先生に感謝申し上げます。

【新専攻医ご紹介】

橋田恵佑先生（徳島大学病院総合診療部）

日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部の先生方、こんにちは。僕はこの4月より徳島大学AWA広域総合診療専門研修プログラムに則って総合診療医の訓練を毎日行っております。平日日中の病院での生活や今後の仕事面での目標については2023年6月分の四国ブロック支部 ニュースレターNo.42をご参照頂けたらと思います。今回僕は2号連続で投稿させて頂けるという事で、病院外での生活について記載させていただきます。



僕は元々身体を動かす事が好きで社会人になった後もサッカーやフットサルを細々としていましたが、人数が集まらなくても練習可能な趣味として働き始めの頃から格闘技に興味を持っていました。時間外に緊急で呼び出されることもほぼ無く、時間が有り余っていた研修医の頃と違い今は時間も十分にはありませんが極力ジムなどで身体は鍛えるようにしています。COVID-19の流行により数年間行けておりませんでした。年に1度の休暇を使ってタイのプーケットにムエタイの練習に行くのが生き甲斐でこの9月にも練習しに訪れる予定であります。

他の国から訪れている練習生は社会人であっても数か月単位で長期滞在して充実したトレーニングを行っている事が心底羨ましく感じられます。

昨年度まで内科専門医を専攻していた時に忙しさから体調を崩したり体重が増えたりと不本意な時期を過ごしましたが僕は自分の身体や運動にストイックになっている時の方が仕事へのモチベーションも高く保てている実感がありますのでこれからも仕事に精進しながら、同時

に運動を続けていけたらと思います。

馬越隆光先生（三豊総合病院）

今年の4月から家庭医療専門研修と連動した三豊総合病院内科総合診療プログラムを選択し、早半年が経過しようとしています。私が総合診療を選択した理由として、疾患として患者を診るのではなく、患者自身を診たいという思いがあるからです。初期研修では、同様の考えを持っておられる指導医達と巡り合え、社会的困難な方と関わる機会があり、そんな方達とどのように接するのか、臨床倫理の4分割法など指導医より教えてい

ただき今の私を形作る基盤ができたように思われます。

今年度からは初期研修の時と比較すると規模が大きい病院で研修が始まりました。以前よりは急性期の患者を診療する機会が増え、自分の果たすべき役割や苦手としていることを痛感する場面が多々あり、日々学ばせていただいています。ポートフォリオ作成においても、指導医やサポートして下さる先生方に相談しながら作成しております。診察時の自身の感情や思いなどを文章化して振り返ることは、大変勉強になるのですが、読書感想文が苦手だった時分を思い返すと難しいという印象です。

私の目標である、患者自身を診る総合診療医となるためこれからも邁進してまいります。



三浦遼太郎先生 (社会医療法人石川記念会 HITO 病院)

今年度より愛媛県四国中央市にあります HITO 病院で総合診療専門医および新・家庭医療専門医の専門研修をさせて頂いております、卒後3年目の三浦遼太郎と申します。生まれは長野県で、出身大学は新潟大学です。卒後は長野県のこもろ医療センターという所で初期研修を終え、こちらに赴任して参りました。

愛媛県や四国、更に言えば西日本には縁はなく、旅行で1、2度来たことがある程度でした。しかし、専門研修病院を全国調べていく中でHITO病院のDX推進事業や、HITO総診のプログラム、また四国・愛媛という地域に惹かれ、一念発起し移住して参りました。まだまだ仕事も生活も慣れないことが多く慌ただしく過ごしておりますが、学ぶことも多く、楽しく充実した毎日です。私生活でも釣りに出かけたり、海沿いをサイクリングしたり、海無し県出身者として海を満喫しております。



今後の私のビジョンとしては、無医村などで地域に根ざした診療所等で訪問診療などを行えたら良いと考えています。今の所は具体的に日本のどこでやるのかなどは決めていないので、どこに行ってもやって行けるような診療能力、人や生活・地域を診て支える力をつけて行きたいと思っています。

皆様には様々な場面でお世話になる事があると思います。仕事や医学の事に限らず、観光や美味しいお店、よく釣れる釣りのポイントなど沢山教えて頂けたら嬉しいです。若輩者ではありますが、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

★ ニュースレターの新しい取り組み

四国ブロック支部長:阿波谷敏英

今回のニュースレターから、新しい編集方針で発行することとなりました。四国ブロック支部活動の活性化のためにも、支部会員へのタイムリーな情報発信、若い会員の活動を取り上げてまいります。ブロック支部会員同士のコミュニケーションが広がることの一助になればと思っております。ぜひ、ニュースレターの内容についてご意見のご感想を阿波谷までお知らせください。✉awatanitos@gmail.com